

市販教材を使った JF スタンダード準拠中級講座

ドゥツス カタリーナ

ケルン日本文化会館

1. 実践コースの基本情報

レベル	A2～B1
実施コース名	中級1 (Mittelstufe 1)
実施日時または期間	2012年10月～2014年7月
授業時間	120分@1コマ、2回×13週=25回×2学期
授業担当講師	報告者および報告者以外の教師3人 ※二人体制で、交互に授業を担当
1クラスの学習者数	9～13人 (学期によって異なる)
学習者の属性	年齢：20代～60代 職業：高校生、大学生、大学院生、教師、自営、研究者等
使用教材	『新日本語の中級』『Basic Kanji Book Vol.2』

2. 実践の背景

ケルン日本文化会館（以下、会館）日本語講座では、入門段階から中上級まで9レベルのコースを設定しているが、そのうち中級の入り口として、「中級1 (Mittelstufe 1)」のクラスがある。中級1は、『みんなの日本語 初級Ⅰ』『みんなの日本語 初級Ⅱ』が終わった学習者が『新日本語の中級』にそって学習する。漢字は、『Basic Kanji Book Vol.2』を使用している。中級への進級時点で継続して受講する者が10人以下に減っていることが多いため、会館の中級クラスは2学期制（冬学期、夏学期）で、どちらの学期からでもスタートできるようになっている。主教材は、冬学期は教材の奇数課を、夏学期は偶数課を使って、どちらの学期から始めても1年で全課を終えることになる。そして両学期の試験に合格すると、「中級2」のコースに進むことができる。また、外部の機関で初級を終え、プレースメントテストによって入る学習者も毎学期いる。

2011年、JF 日本語教育スタンダード（以下、JF スタンダード）の導入により、全レベルのクラスをJF スタンダード準拠にすることとなった。JF スタンダード準拠の初中級教材がまだなかったため、市販教材『新日本語の中級』をベースに、シラバスをJF スタンダード準拠に変更した。また合わせて、学習者のニーズや興味に合うシラバス改訂を行った。なお、『Basic Kanji Book Vol.2』を使った漢字学習は、今回のシラバス改訂からははずし、特に変更を行わなかった。

3. 実践の内容

3.1 JF スタンダード準拠のコースデザイン

(1) コース目標の再確認

コースデザインを行うにあたって、まず、コースの目標を確認した。以前は、教科書をこなすことによって総合的な日本語力を身につけることが目標であったが、今回の実践においては目標を学習者のニ

ーズに合わせることを考えた。コースの申し込み時点で行われる簡単なアンケートで、学習者が 4 技能の中で話す力を第一に選んでいることから、口頭コミュニケーション（やりとり）の向上をコースの主要な目標に決めた。また、これまでの学習者データから、このコースを終了した学習者がその後、「中級 2」のクラスに進むことが多いことから、4 技能において A2 から B1 への架け橋となることを目指した。そして、初級クラスで A1、A2 レベルの内容を学んできた学習者に、それまで得た知識を復習しその定着をはかりながら運用力の強化を目指すコース設定に取り組んだ。

(2) トピックの設定

JF スタンダード準拠のコースデザインのシラバスを考えるにあたって、まず機能シラバスを採用している主教材の『新日本語の中級』を分析した。そして、「頼む」「ほめる・謙遜する」といった課を、使用場面・相手・目的が明確である Can-do に変える第一歩として、その課で出てくる場面や会話の内容からトピックを設定してみた。その際、今までこのコースを担当した経験から、学習者がなじみやすい会話、身近に感じる会話をピックアップし、それがどんな場面でだれとのやり取りなのか洗い出した。会館の学習者は主に趣味で日本語を学んでいて、職場で日本語を使う人や就職のために勉強している人はめったにいない。そのため、会社の研修生を主人公にしている教科書は、もともと会館の学習者に合わないところがあった。そこでトピックを選ぶときには、会社内の会話よりも、同僚との付き合いに関する会話（「誘う」、「料理の説明」）を選び、対象者が同僚や上司だけでなく、一般的な知り合い、友達などにもありそうな場面を選んだ。機能ベースの教材のため、課によっては同じ機能を、いくつかの場面でいろいろな人に使っている。こういった課では、学習者に身近であろう会話を使用できるようにトピックを設定した。

トピックの設定は、課を超えることもあった。『新日本語の中級』の 1 課「尋ねる・確かめる」では、駅で聞き取れないアナウンスや読めない看板について人に説明や確認を求める会話がある。一方、9 課「道を尋ねる」には電車乗り換えのときの駅での道案内が入っている。そこで、1 課に 9 課の一部を取り入れ、学習者が日本に行ったとしたら利用するであろう日本の「駅」をトピックにした。

また、16 課の機能「たとえる」は日本語の比喻や擬態語を取り上げ、学習者がこれまで非常に興味を示していた課なのだが、会話の中で自由に使うことがこの段階でまだ難しく、会話例をそのまま暗記することにとどまっていた。そこでここは学習者の興味に配慮し、比喻や慣用句など、今までの学習の中で面白かった日本語を他の学習者とシェアする場面を考え、「面白い日本語」というトピックを設定した。

(資料 2 参照)

つまりトピックを設定するときには、教材の各課で提示されている機能より、実際どんな会話が例示されているか、それは学習者のニーズにあっているかどうかを考慮した。Can-do シラバスに変わっても、教材をできるだけ活用し、音声・動画も使用したいと考えたが、課の設定からかなり離れるトピックもできた。そのとき、教科書の構成ではなく、パーツをみて組み合わせを変えたり削除したりする勇気が必要であった。

表1：『新日本語の中級』の機能・場面と、新シラバスのトピック

課	機能	場面
1	尋ねる、確かめる	駅で看板、アナウンスの意味を聞く
3	頼む	寮で管理人に頼む、同僚に頼む
5	誘う、断る	同僚をスポーツに誘う、会社の二次会を断る
7	病状を伝える	病院で
9	道を尋ねる	町で聞く、電車での行き方を聞く
11	人とつきあう	同僚との外食でおごる・おごられる・割り勘にする
13	苦情を言う、謝る	隣人への苦情、寮・会社で謝る
15	仕事について話す	知り合いに説明する、同僚に経歴を話す
17	相談する、提案する	会社で
19	意見を述べる	同僚と

課	新シラバスのトピック
1 9	駅
3 13	隣の人との問題
5 11	人との付き合い1
7	病院
15 17	共に学ぶ
19	人との付き合い2

(3) Can-do の設定

学習レベル、学習目標とトピックを決定した後、目標とする Can-do を設定した。国際交流基金の Can-do サイトを利用し、まず広くトピックに関連のある A2、B1 の Can-do を検索した。そしてそれぞれのトピックにその2つのレベルに合う Can-do を仮にあてはめた。トピックに当てはまる Can-do が抽出できなかった場合は、My Can-do を作成した。「面白い日本語」のトピックでは受容（読む）の A2 レベルの Can-do を使って「日本の擬態語、慣用句などについての簡単なテキストを読んで、その内容が理解できる。」を作成した。また「やりとり」の Can-do では同じ A2 のレベルで「同じく日本語を学習している人と、お互い知っている「面白い日本語」について質問したり、答えたりすることができる。」を作成した。

次にトピックごとに仮に当てはめた Can-do から最終的な Can-do を決定した。その時の留意点は、①学習者の興味、②トピックの中の Can-do のレベルのバランス、③コース全体における Can-do の種類（やりとり、受容、産出）のバランスであった。

学習者の興味は、トピックにも反映されているが、さらにどんなタスクを好むかを、以前のコースの終了アンケートを参考にし、Can-do にも反映させた。

Can-do のレベルのバランスとしては、コースが A2 から B1 への架け橋になることを目標とし、コースの最初のトピックは入り口として A2 レベル、その後、特に初級後半（A2 レベル）ですでに扱っているトピック（「料理」、「買い物」）は今回は B1 の Can-do に挑戦する形にした。また、「環境」で B1 レベルのかなり抽象的なトピックを入れた後、新しいトピックを通して A2 の定着を図る流れとした。

Can-do の種類のバランスはコース目標にあわせ、口頭のやりとりの Can-do を重視し、その後、受容、産出という優先順位で決めていった。学習者には、日本人とコミュニケーションをとったり、日本のニュースやアナウンスなど聞き取るニーズはあるが、まとまって話す、文書を書く必要があまりないからである。

表2：新シラバスにおける Can-do の種類

Can-do	2012年冬学期			2013年夏学期		
	全	A2	B1		A2	B1
やりとり	12	5	7	11	7	4
口頭	10	5	5	11	7	4
書く	2	-	2	-	-	-
受容	3	2	1	4	-	4
聞く	1	1	-	2	-	2
読む	2	1	1	2	-	2
産出	1	-	1	2	-	2
話す	-	-	-	1	-	1
書く	1	-	1	1	-	1
合計	16	7	9	17	7	10

(4) 大まかな教室活動の設定

目標 Can-do が達成できるように、どんな教室活動が必要かを考え、大まかな流れを作成した。クラスの担当教師が Can-do 達成のために工夫できるように、具体的な授業の流れや教案までは作らず、まずは、教科書の使用範囲を決めておいた。また、教科書でカバーできない部分において、どんな教材・活動が必要かを簡単に設定した。

(5) 必要な文型、表現の決定

目標 Can-do を達成するために必要な文型と表現を選択した。まず、トピックで使う『新日本語の中級』の課の文型を確認し、必要なものをシラバスにいった。教科書の使用範囲はほとんど会話であり、課ごとにある「よみましょう」という読解文は基本的に採用しなかったため、まず読解の文型を外した。

また、会話の文型も見直し、直接 Can-do 達成につながるもののみ採用した。当初は一部 Can-do につながらない文型もシラバスに残っていたが、のちに削除した。この件については、後述する。

冬学期のシラバスのトピック1「駅」を例にあげると、次のようになる。「駅」というトピックに関連した Can-do を「みんなの Can-do サイト」で検索する。「旅行と交通」をキーワードに A2、B1 で検索を行い、その中からアナウンスの聞き取りや、乗り継ぎについて聞くものを選択する。そしてこのトピックでは「受容」と「やりとり」の3つの Can-do を選び、それに合わせて教科書の2つの会話を利用できるか検討し、1課では両方、9課は会話2のみ採用した。それに合わせて文型を決めた。ただし、タスク達成には直接必要ではない文型も、できれば授業で扱いたいと思い、残しておいた(表3の「*」)。また、足りない教材をどう補うか考え、日本の駅のアナウンスをネットで検索した。4回の授業の教室活動は、次の表3の通り設定した。

表3：冬コース Topic 1 の内容と流れ

授業回数	Topic/ Can-do	授業活動・教科書の使用範囲	新出文型・新出表現
1	Topic：駅 ・駅のホームや電車の中などで、出口や禁煙などの簡単な表示を見て、理解することができる。(My A2 受容)	ウォームアップ：日本の駅は？ 標識（漢字を含む）の意味を考える。会話1をモデルに、意味を確認する練習。駅の中のことば（練習1、「読もう」の練習）	合成語：～口 ～って(L1) Vればいい(L1) ～というのは～っていうことですか(L1)
2	・駅のホームや電車の中などで、発着案内や電車の乗り換えなどの簡単なアナウンスを聞いて、理解することができる。(JF A2 受容)	アナウンスを聞く：L1 会話2、駅のアナウンス（生教材）の聴解	(名前) というN(L9) Vるには(L9)
3	・道に迷ったとき、目的地への行き方について、短い簡単な言葉で人に質問したり、説明したりすることができる。(JF A2 やりとり)	乗り換え案内、道案内（初級2,3での道案内を思い出しながら）L9 会話2。文型導入・練習	*(名詞止め(L9)) *(動詞の名詞化(L9))
4		L9 会話2をモデルに道案内のロールプレイ（駅の中、乗継）：日本の名所に行きたいAさん、教えてあげるBさん	削除：V たところで(L9)

(6) 新シラバスに合わせた試験作成

新シラバスに合わせて試験も改訂された。会館では毎学期、期末試験が行われ、その結果により進級が決まる。JF スタンダード準拠のコースに変わる前の試験は、漢字・語彙、文法、読解、作文からなる筆記試験と、講師の質問に答える口頭試験の2つに分かれていた。言語知識を問う問題は短文の穴埋め式、選択式が多かった。

一方、新シラバス導入後の期末試験は、言語知識だけ問う部分（主に漢字）も残しながら、基本的にパフォーマンステストで実施している。試験は2回に分け、筆記試験と口頭試験をおこなう。筆記は読解、聴解、作文、漢字からなり、コースで扱ってきたCan-doを問う。文字の部分においては、意味のあるコンテキストの中で漢字を読んだり、適切な漢字を選んだりする形式である。またコースの目標として「口頭コミュニケーション力」がメインとなっているため、成績に占める口頭試験の割合を、従来の1～2割から3割にあげた。授業中ではそれ以上の割合を占めているが、時間的な制限から学習者一人にロールプレイを最大2つしかできないことや、口頭試験に大変緊張する学習者もいることから、筆記試験が6割、授業の参加度が1割になっている。ただし学習者が口頭試験にさらに慣れてくれば、口頭の成績を占める割合を増やすことも可能であろう。

3.2 コースの実施

3.2.1 第一段階（2012年冬学期、2013年夏学期）

1回目の新しいシラバスは、2012年冬学期、2013年夏学期で実施した。冬学期は11名（男性7名、女性4名）の学習者であった。コースの途中個人的な理由でやめる学習者もあり、出席率の悪い人もいたため、平均5、6人の出席者であった。教師は学習者に合わせて授業活動を調整し、またCan-doや教材の適切さを検討しながらコースを進めた。学期末試験の受験者は5名で、全員合格でき、全員次のレベルに進級した。コース終了時点のアンケートには6名の学習者が回答し、コースの全体的評価は3人

が「大変よかった」、3人が「よかった」と評価している。

「コースのよかった」点として、「たくさん日本語が話せたこと」があげられ、日本語力が伸びたかどうかの質問に対し、「とても伸びた」、「伸びた」の回答があった。

2013年夏学期の参加者9名（女性7名、男性2名）は全員新しく「中級1」に入ってきた。終了試験は4人が受け全員合格であった。このコースも学習者の様子に合わせて、基本的にはシラバスどおりに行った。終了アンケートには6人が回答し、コースの全体的評価は「大変よかった」1名、「よかった」4名、「どちらともいえない」1名であった。

「コースのよかった」点として、3人が「会話練習が多かったこと」をあげている。また、「教材が面白い」「『面白い日本語』のトピックがよかった」などのコメントもあった。「改善すべき点」では「語彙リストがほしい」「未習漢字が多すぎる」「その課の学習目標がよく分からないことがあって、試験準備で困っている。文型、語彙をもっとはつきりするべき」などがあった。

3.2.2 第一段階のふりかえり

(1) 2012年冬学期終了後の改善点

2012年冬学期でいくつかの問題点がでたため、2013年夏学期に向けて改善策を考えた。

① 教師側の悩みと改善策

当初、教材をできるだけ使用したいということから、Can-do 達成に直接必要でない文型も、シラバスの中に残っていた。しかし、教科書は所々しか使わないため、文型のすべてをカバーしていない。教師たちは、Can-do 達成に直接必要でない文型をどう扱うべきかで悩みながら進めていた。そこで、学習目標となっている Can-do を達成するために必要な文型に絞り、教科書にあるからという理由だけで不必要な文型を残さないことを決めた。

また、Can-do 達成のためには追加教材を用意する必要があったが、教科書以外の教材探しは手間がかかる。また、教材の適切さの判断が難しい場合があり、教師同士で相談する必要性が増えた。このレベルは生教材を扱うのはまだ大変な時期でもある。試行錯誤はあったが、1回目の実施経験を経て、具体的な授業活動、副教材がある程度決まってきた。そこで、授業記録やマテリアルの引き継ぎによって、次回教師の負担を減らすと同時に、新しい試みの余地を残すこととした。

② 学習者側の悩みと改善策

一方、学習者には教科書通り進まないため、どの文型が扱われるかなどがわかりにくい、特に欠席した場合の自習や予習が難しいという悩みがあるようだった。また、「せつかく教科書を買ったから、ぜひやりたい」という声もあった。そこで、学習者とのコミュニケーションを以下の方法で改善することとした。

まず、最初の授業で簡単なオリエンテーションを行った。その際、教科書通り教えていない理由と、シラバスの全体像を紹介するとともに、CEFR の全体的尺度を見て、自分の今の日本語力を判断することを説明し、今学期、自分の目標にしたいことを目標シートに記入するようにした。

また、学習者が自分の学習を振り返る道具として、簡単なセルフチェックシートを導入した。セルフ

チェックシートには、Can-do チェック、文型・表現チェック、漢字チェックのほか、これから気を付けて勉強したいことを記入するスペースを設けた。(資料3 参照)

(2) 2013 年夏学期終了後の改善点

上記の改善を経て夏学期を実施したが、トピックごとの Can-do が多すぎ、時間的に達成できないものがあった。そこで、数を減らすことや、トピックに当てる授業回数を調整した。トピックごとの Can-do を最初 3～4 つで設定していたが、2～3 つに減らした。主にやりとりの Can-do を残し調整したが、トピックの流れを考え、「受容」→「産出」や「受容」→「やりとり」の組み合わせを多くした。

また、トピックを一部改訂した。冬、夏合わせて、似ているトピックを整理したほか、学習者があまり興味を示さないトピックを入れ替えた。具体的には、「買い物の相談」というトピックを削り、学習ストラテジーについて話す、プロジェクトワークの相談をするトピックとして「ともに学ぶ」を設定した。

3.2.3 第二段階 (2013 年冬学期、2014 年夏学期)

シラバスの見直し後、2 回目のコースを実施した。冬学期は学習者 8 名 (男性 1 名女性 7 名) であった。終了試験を受けたのは 2 名のみで、いい成績を修めた。そのうちの 1 名は進級した。第二段階では新しい教師が 1 名入り、2 人体制で前回の実施の問題点を配慮し、授業を行った。入れ替わったトピックも評価がよかったが、最終的に 2 名しか残らないクラスとなっていた。ただし日本留学や転職といった学習者の事情もあり、シラバスやコース運営との関連は定かではない。学習者の終了アンケートによる評価では、2 名はコース全体を「大変よかった」と高く評価しているが、「文法をもっとやりたい」との希望が出た。

2014 年の夏学期は新しい 8 人のメンバーでスタートし、終了試験受講者は 6 名で、1 名が不合格となった。終了アンケートでは、8 人のうち 5 人はコース全体を「よかった」、3 人は「あまりよくなかった」とネガティブな評価をしている。ただし、日本語力が伸びたかどうかという問いに対し、8 人全員が「伸びた」と回答している。「文法をもっとやりたい」というコメントが 5 人からも出ており、また「文法の説明をもっと詳しくしてほしい」という声もあった。Can-do が達成できても新しい文型の習得にはいかなかったのか、その意識があまりないのか、これからの課題になる。1 つの原因として考えられるのは、新しい文型をそのトピックのコンテキストの中でしか練習しないため、教科書の練習問題を部分的にしかならないことにあるかもしれない。学習者からみて、初級にはたくさんあった文型ドリルがないため文型をあまり練習していないと考えたと思われる。また、今までの初級文型と新しいものの使い分けなどについても、説明や例示がたりなかったかもしれない。教師から見て、導入する文型を増やす必要は感じないが、学習者の声に応え、授業活動での文型の説明や練習について吟味していきたいと思う。

4. 実践の成果と課題

2 年余の作業を経て、「中級 1」のコースを JF スタandard に合わせて改訂することができた。それによって大きく変わったのは、まず教師・学習者間の学習目標の共有ができたことである。また、Can-do による自己評価を導入することができた。終了時のアンケートでは、学習者の日本語力が伸びたことを

実感しているようである。

課題も残されている。コースの目標シート、セルフチェックシートを、ポートフォリオに発展させる必要がある。それによって、学習者の自律学習を支援し、学習者のニーズに合わせてコメントやアドバイスができるし、教師と学習者だけではなく、学習者同士もポートフォリオを通じて学習経験や学習ストラテジーをシェアできると考えられる。また、漢字の扱いについて、現在、漢字指導はトピックと関係なく、Can-do とも関係なく行われているが、理想的には、漢字指導をトピックに取り込みたいと考えている。ただし、学習者はその必要を感じておらず、『Basic Kanji Book』の使用に満足しているようである。一方、特に2014年の夏学期のアンケートではコース全体の評価が低く、その原因には文法項目の扱いに対する不満があることから、トピックの流れの中で新出文型の提示、練習の仕方、既習項目との関連付けなどを見直す必要があるであろう。

この実践を通じて、報告者にはたくさんの学びがあった。Can-do シラバスを作成していく中で、JF スタンドアードの理解が深まった。コースデザインははじめての経験で、常に学習者のニーズや興味に戻りつつ設計していく中で、学習者のことをさらによく考えるようになった。また教材選びや教材作成の難しさも改めてよく分かった。学習者の反応を見ると、文型の扱いが大きな課題として残るが、ある程度学習者にもシラバス変更の意義を分かってもらえたのではないかと思う。

資料1 : 2013 年冬季期シラバス一覽

Datum	Can-do	言語活動	クラス活動	新日本語の中級	新出文型・新出表現	BKB (*は既習関連漢字) 毎回30分時間をとること
1 22.10.	Topic : 駅 ・駅のホームや電車の中などで、出口や禁煙などの簡単な表示を見て、理解することができる。(My A2 受容) ・駅のホームや電車の中などで、発着案内や電車の乗り換えなどの簡単なアナウンスを聞いて、理解することができる。(JF A2 受容) ・道に迷ったとき、目的地への行き方について、短い簡単な言葉で人に質問したり、説明したりすることができる。(JF A2 やりとり)	受容 やりとり	標識(漢字を含む)の意味を考える。会話1をモデルに、意味を確認する練習。駅のことば(練習1、「読もう」の練習) アナウンス *L1会話2、駅のアナウンス(生教材)の聴解 乗り換え案内、道案内(初級2.3での道案内を思い出しながら)L9会話2。文型導入・練習 道案内のロールプレー(駅の中、乗継)	L1 L9	合成語: ~口 ~って(L1) Vればいい(L1) ~というのは~ってということですか(L1) (名前)というN(L9) Vるには(L9)	L32 交通機関 線、発、到、交、機、関、局、信、路、故、注、意 L31 特急、 L33 自由、L25 席 L33 いろいろな表示 押、引、割、営、取、自、由、求、願、知
2 24.10.						
3 29.10.						
4 31.10.						
5 05.11.	Topic : 隣の人との問題 ・隣の住人と騒音などの問題が生じたとき、ある程度詳しく状況を説明し、苦情を言うことができる。(JF B1 やりとり) ・隣の住人と騒音などの問題が生じたとき、隣の住人の苦情を聞いて理解し、謝るなど当座の対処をすることができる。(My B1 やりとり)	やりとり	13課の会話1 いろいろなクレームのロールプレー 謝るロールプレー	(L3) L13	~たんです(L3) Vてほしい(L3) ~んですが...(L3) Vて頂けないでしょうか(L3) たたVるだけでいい(L3) Vてもらえないでしょうか(L13) ついVてしまう(L13) Vつ放しにする(L13) もうちょっとでVるところだった(L13) V終わる/始める(L13)	L26 日本の四季 春、夏、秋、冬、暑、熱、寒、冷、暖、温、涼、涼、天 L27 接辞の漢字 仕事、仕、事、者、運、転、選、農 L29 入学試験、試、験、面、接、果
6 07.11.						
7 12.11.						
8 14.11.	Topic : 人との付き合い ・取引先で、名刺を交換しながら、名前、所属、業務内容など、仕事上必要な情報などについて、ある程度詳しく自己紹介し合うことができる。(JF B1 やりとり) 友人と週末映画を見に行くために、見る映画や時間などについて、短い簡単な言葉で話し合うことができる。(JF A2 やりとり) ・個人の手紙を読んで、出来事、感情、希望の表現を理解することができ、定期的にペンフレンドと文通できる。(CEFR B1)	やりとり	名刺交換(エリンビデオ等) 自分の仕事を詳しく説明するためのキーワード (メモをみながら)詳しい自己紹介 人をさそう 会話1をモデルに 人を誘うロールプレー 誘いの手紙をよむ・誘いの手紙を書く	L15 L5	合成語(L15) ということ(L15) 終助詞(L5) 確か~たよね(L5) ~んだけれど、一緒にどうかかなと思 って(L5) Nでも(一緒に)どうですか?(L5)	L28 テスト問題 良、悪、点、正、違、同、適、当、難、次、形、味 L29 入学試験、試、験、面、接、果
9 19.11.						
10 21.11.						
11 26.11.						

12 28.11.	Topic : 病院 ・ときどきくり返しや説明を求めることができれば、病院などで、どこがどのくらい痛いかなどの簡単な質問に対して、短い簡単な言葉で答えることができる。(JF A2 やりとり)	受容 やりとり	会話1・2 単語を確認 擬態語 ロールプレイ (『会話に挑戦』第8課使用) 処方箋を読む 人に説明する	L7	おVください(L7) そのうち〜かと思つて〜んですが(L7) 擬態語(L7) 念のため(L7) (時間)する(L7) 〜ずつ(L7)	合、格、受、落、残、念 L.30 部首さんずい てへん 指、折、私、投、打、深 、洗、流、消、決
13 03.12.	・(薬箱)処方箋に書かれている注意書きなどの短い簡単なテク ストを見て、用法・用量など、必要な情報を探し出すことができる。(JF A2 受容)	受容 産出 やりとり	17課導入、会話1、その文型と練習	L.17 L.19	前もつてVておく(L17) 〜というのはどうですか(L17) 例えば〜とか(L17) NIにとつて なかなか難しい(L19) Vの方が(L19) やっばり(L19) Nといえ、やはりNだ(L19) 何となく(L19)	L.31 旅行 旅、約、案、準備、相 、談、運、絡、特、急
14 05.12.	17課相談のロールプレイ					
15 10.12.	Topic : 共に学ぶ ・日本語学習において、クラスメート・先輩・教師などに、自分が抱えている問題や状況などについて簡単に説明し、相談することができ る。(MyCando B1.1 やり取り)					
16 12.12.	・友人と、日本紹介パンフレットを作成するために、載せる写真な どについて、自分の意見を述べたり他の人の意見を調整したりし ながら話し合うことができる。(MyCando B1 やり取り)					
17 17.12.	・日本紹介において、ある写真についてのコメントを、ある程度詳 しくパンフレットなどに書くことができる。(MyCando B1 産出)					
18 19.12.		テーマの会話、その文型と練習 討論しながら小冊子作成 ある写真を選んだ理由を書く。		L.23 趣味 映、画、写、真、音、楽 、料、組、思、色、白、 黒、赤	L.24 反対の動作 起、寝、遊、立、座、使 送 L.25 日本の結婚式 結、婚、離、席、欠、予 、定、洋、式、和、活	
19 07.01.		会話1・2 会話3・ロールプレイ お礼のメールを書く	L11	Vてばかりいる(L11) Vさせてください(L11) Vるようになる(L11) いいわるい(L11) そろそろVようか(L11)		
20 09.01.	Topic : 人との付き合い2 ・同様と食事をしたとき、だれが払うか、割り勘にするかなど、丁 寧にはなすことができる。(MY A2 やりとり)	やりとり	会話1・2			
21 14.01.	・同僚が暮ってくれた時、丁寧にお礼をいうことができる。(MY A 2 やりとり)		会話3・ロールプレイ お礼のメールを書く			
22 16.01.	・お世話になった人に、感謝の気持ちや近況などについて、ある 程度詳しくお礼の手紙やメールなどを書くことができる。(JF B1 やりとり)					
23 21.01.		ふくしゅう Wiederholung				
24 23.01.		筆記試験 (書く・聞く・読む・漢字)				
25 28.01.		口答試験 (話す・やりとり) & Feedback				

資料2：2014年夏学期シラバス一覧

Datur	Can-do	言語活動	クラス活動	新日本語の中級	新出文型・新出表現	BKB (*は既習関連漢字) 毎回30分時間をとること!
1	4/2 (火) ・もし、繰り返しや言い直しを求めることが可能なら、短い、簡単なメッセージを受け取ることができる。(GEFR A2 やりとり)	やりとり	L2 会話2で伝言のお願い、表現、敬語確認 ロールプレイ	L2 L6	～ほど ～でしようか あいにく、 ～とつたええていただけませんか ～ということですね 挨拶の表現(失礼します、遠慮なくい ただきます、つまらない物ですが等) 敬語	L34 台窓 器具 用紙 類 確認
2	4/4 (木) ・知り合いの家に電話をかけたとき、留守の場合、適切に応じて、短い、簡単なメッセージを頼むことができる。(MY A2 やりとり)		訪問のマネー、プロスケルを思い出してシェア。会話1、2。 訪問のロールプレー			
3	4/9 (火) ・知り合いの家を訪問した場合、家族に適切に挨拶や自己紹介、土産を渡したり、出身地などついて会話できる。(MY A2 やりとり)		自分の近状などのスモールトークも入れて、訪問の会話。			
4	4/11 (木) Topic2: 料理 ・テレビの料理番組などを見て、映像やテロップを頼りに、作り方やコツなど、主要な情報を理解することができる。(JF B1 受容)	受容 産出	WP:好きな料理、和食の知識、等 視聴解:ビデオをみて、レシピを完成させる。語彙確認	L10	～てから、 形容詞の副詞化(料理の動作) 料理の道具、材料の語彙	L35 銀製品 個産 期 々 報告
5	4/16 (水) ・自分の得意な料理の作り方などを順序だてて友人に説明することができる。(JF B1 産出)		料理の材料の語彙学習。得意な料理の材料、作り方をベ アで話し合う。適宜に質問する			
6	4/18 (木) ・自分がよく知っている料理であれば、友人のために、レシピを、ある程度詳しく書くことができる。(JF B1 産出)		レシピを書く。(個人・ペアワーク)			
7	4/23 (火) Topic3: 買い物 ・ホームセンターなどで店員に、購入したばかりの商品の不具合などを簡単に説明し、返品や取り換えを要求することができる。(JF B1 やりとり)	やりとり	会話1、2。表現確認	L8 L12	お/ご～ですか Nなんか AはBとどこが違うんですか。 AはBと比べるとどうですか。 Aだけじゃなくて、Bも 値段はここから変わらないんですか (14年夏に新しく追加)	L37 伝代呼様曲脱別 集並喜驚
8	4/25 (木) ・電気屋などで店員に、他店との比較など値引きに値する根拠を説明しながら、商品の値段を交渉することができる。(JF B1 やりとり)		クレームの会話			
9	4/30 (火)		交渉の会話			
10	5/2 (木) Topic4: 旅行計画 ・旅行雑誌やガイドブックなどの、ある程度長い文章に目を通して、名所や名物の特徴など、行き先を決めるために必要な情報を採り出すことができる。(JF B1 受容)	受容 やりとり 産出	読解:ガイドブック、チラシ、ホームページなどから、自分の 計画に必要な情報を採り出す。	L18	～だったら/でしたら 旅行計画に関する語彙	L38 細太重軽狭弱眠 苦 簡車
11	5/7 (水) ・(友人と外出や旅行をするために、行き先や日程などについて、自分の意見を述べたり他の人の意見を調整したりしながら話し合うことができる。(JF B1 やりとり)		話し合い。会話1をもとに、グループで旅行計画を立てる。フ ォーマットに記入。			
12	5/14 (火)		決まった計画をプレゼン。お互いに質問、コメントをする			

13	5/16 (木)	Topic5: 環境 ・環境関連のサイト上のエコマークなど、環境表示に関する簡単な説明を読んでも、いくつかの情報を理解することができる。(JF B1 受容) ・地球温暖化など、自分にとって身近な環境問題に関するニュースなどを見て、映像やテロップを頼りに、取り上げられている問題の主要な点を理解することができる。(JF B1 受容) ・環境問題のテレビ番組などの内容について、友人や家族と簡単なコメントや意見を交換することができる。(JF B1 やりとり)	読解: エコマークのテキストなど 聴解: 環境問題のニュース等 見たものについてコメントや意見交換	L20	環境問題に関する語彙 (環境問題、地球温暖化、エコ活動、節電など) 意見述べの文末表現 (〜と思う、〜べきだと思ふ、私もそう思う、〜さんの意見に賛成、それはちよと違ふと思ふ)、〜の方がいい、〜べきだ、〜なければならぬ、〜ない方がいい、〜べきではない、〜てはいけない)	L40 位置構向原平野 風面橋
14	5/21 (火)					
15	5/23 (木)					L41 老族配術退効民 訪蹟園
16	5/28 (火)	Topic6: 面白い日本語 ・日本語の擬態語、慣用句等について簡単なテキストを読んで、その内容を理解できる。(MY A2 受容) ・同じく日本語を学習している人と、お互い知っていう「面白い日本語」について質問したり、答えたりすることができる。(MY A2 やりとり)	WP: 好きな日本語、面白い日本語は? グループでそれぞれ慣用句に関するテキスト・擬態語のテキストを読んで、内容理解 自分が読んだものを、他のグループの人にまとめて紹介する。 いろいろな擬音語、面白いと思う表現を集めて紹介する	L16	〜といのは、〜という意味だ NのようなNのように 慣用句 擬態語	L42 卒論実語必要類 得失礼
17	6/4 (火)					
18	6/6 (木)					
19	6/11 (火)	Topic7: 会社で ・職場で、体調が悪い時などの場合、上司に説明し、早退などの許可を丁寧に求めることができる。(MY A2 やりとり) ・上司に出席や研修参加などの許可をお願いする時、その理由をある程度詳しく説明し、丁寧に頼むことができる。(MY A2 やりとり) ・会社の同僚の服装等をほめたり、自分が褒められたときに、適切に答えたりすることができる。(MY A2 やりとり)	4課会話2: 許可の表現、練習。ロールプレイ 会話1: 理由を説明して丁寧に頼む練習。ロールプレイ。 時間があれば、申請書? 14課の会話1、2: 褒める表現、返事の仕方を考える。練習 褒める・褒められるロールプレイ。	L4 L14	～させていたただきたいんですが ～させていただけませんか ～ので	L43 増加減変移経過 進以美 L44 比較反対賛共直 表現初
20	6/13 (木)					
21	6/18 (火)					
22	6/20 (木)					
23	6/25 (火)					L45 全最無非第的性 法制課
24	6/27 (木)					
25	7/2 (火)					

ふくしゅう

筆記試験 (書く・聞く・読む・漢字)

口答試験 (話す・やりとり) & Feedback

Mittelstufe 1 2013 冬

CanDo セルフチェックシート 1

名前： _____（ 年 月 日）

トピック： 駅

新日本語の中級 第1課・第9課

- Schilder/Beschriftungen im Bahnhof lesen
【駅の中の標識が読める】 hoch / mittel / niedrig
高い / 中 / 低い
- Nach der Lesung/ Bedeutung von Schildern fragen
【標識の読み方・意味を聞くことができる】 hoch / mittel / niedrig
- Wichtige Punkte von Durchsagen im Bahnhof/ Zug verstehen
【駅・電車のアナウンスの要点が分かる】 hoch / mittel / niedrig
- Ausführliche Wegbeschreibungen geben/ verstehen
【詳しい道案内ができる・わかる】 hoch / mittel / niedrig

【^{かんじ}漢字】

L32 線、発、到、交、機、関、局、信、路、故、注、意

L33 押、引、割、営、取、自、由、求、願、知

- 上の漢字の意味がわかる。 hoch / mittel / niedrig
- 上の漢字の読み方（音読み、訓読み）がわかる。 hoch / mittel / niedrig
- 上の漢字を使って、いくつかの熟語（Kanji Kompositum）を作ることができる。 hoch / mittel / niedrig

<これから特に気をつけて勉強したいことは何ですか？>

.....

.....

.....